

武家事紀

七

庫文閣内			
四八函	三三九	和	
一架	五二冊	書	
	一六號	類	

内閣文庫	
番號	和 33916
冊數	52 (7)
函號	148 3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

图252

武家事紀卷第七目錄 續集

譜傳二

義輝公

武家事紀卷第七 續集

光源院殿

辛亥元年天文二十年春王正月公在江列 ○三月三好長慶如京師過于伊勢負孝伊勢守 ○長慶謀京師地子錢 ○北

条氏康帥師攻平井城上野上相憲政出奔川越 ○四月織田信長与織田某清洲城主

戰海津尾秋七月三好長慶帥師放大相國寺 ○八月陶晴賢

帥師侵山口 ○九月陶晴賢弒其君大内美隆

辛亥元年天文二十年春正月公在江州美輝公萬松院美

晴公嫡子天文十九年十五歳ニテ父ノ遺跡ヲ相續メ江

列比叡過ノ宝泉寺ニ旅館ヲシツラワル京都ニ細川晴元

兵三好長慶カ戦不止也細川晴元管領ヲツトム二月三好長
慶カ兵松永甚助江兵志賀ニ働テ佐々木カ兵ト大ニ戦テ松永敗
レ引上ル同月武田晴信別髪ノ法性院越山信玄ト號ス三月
伊勢守貞孝上洛ノ三好長慶ニ參會シ公歸京ノ美ヲ催
ス同月十四日貞孝カ宅ニ三好長慶ヲ招請セシメ酒ヲスル然
ルニ酒半ニ公ノ近臣某三好長慶ヲニカ突長慶取合セコレヲ
殺害スニカレハ今日ノ招請貞孝異心ノ企ニヤト風聞アリトイ
氏貞孝全ク異心ナキコトヲ三好長慶得心ニ言テ不及子細貞孝ト
猶以參會不止也同月三好長慶洛中ノ地子錢ヲ下知ノ三好
家ニヨサム或云弘治三年同月北条氏康三萬ノ兵ヲ以テ上掲

カ居城上州平井ヲ攻ム大田義康守曾我兵庫頭等防戦
トイヘ臣不叶ノ憲政平井ヲ落テ既橋城ニ引籠ル家臣曾
我兵庫頭本庄宮内少輔等相詰ノ比越ノ長尾景虎ヲタノ
ム関東本意ニツイテハ上列一國憲政隱居分ニ可領其餘景
虎手柄次第ト約束シ上掲ノ系図并ニ重代ノ太カ天子ノ
御旗三本篠ニ飛雀ノ幕ヲワタシ管領職ヲ可被勤トノ
コト也上列ニ憲政カ子竜若丸ヲ置テ家臣コレヲ守護シ
憲政ハ右ノ通ニテ越後ニ至ル長尾大ニ悦北条退治不可
回踵ノ由領掌シ憲政ヲ巳カ館ヲ崇敬シ北条退治ノ午
立テ回ス竜若丸ハ家臣尋コレヲ生捕テ北条ニワタシ一

取懸命ノ地ヲ願フ氏康ヤカテ毫若丸ヲ誅シノノ家臣氏
譜代ノ主君ニ皆テ不美ノ企アルヲニクミ不殘コレヲ死

罪ニ行フコレニヨツテ上相教代ノ家コトクノ北条カクシニ滅

亡ス憲政三歳ニテ又憲房ニヲクル憲廣 古河高 基ニ男 陳代トシ

テ事ヲ執行フ憲政成長ノ後憲廣上総宮魚ニ隱居シテ

相ヲ改左馬頭原時直ト號ス俗ニ宮原御取ト称ス憲政少年

ヨリ上相管領ノ家ニ生シ富貴ニフケリ淫酒ノ事トス近臣管

野大膳上原兵庫倭奸ヲ事シテ賄賂ニヨツテ事ヲナス然

レ曰臣コトクノ怨ヲフクミケレ北條氏康時節シウカイ年

月ヲ送ソツイニ上相家ヲ滅亡セシム早雲明應四年小田原

小田原城主大森 之屬上相扇谷 ヲ攻トリシヨリ今年ニテ五十七年早雲氏細氏京

三代ニ至テ上校 遂ニ北越ニ深泊シ二代ニテ主ヲコロセル家臣

長尾ニ屬セル也

秋七月細川晴元カ兵士出京ノ相國寺ニ楯籠是ニヨツテ回十

四日三好長慶相國寺ヲ放火ス 八月陶尾張守晴実兵ヲ

師テ山口ニ至ル去年陶主君大内ニムイテ富田ニ引込山口ノ

体ヲ伺フトイヘ氏美隆日夕ニ行跡ヲコタリ倭臣事ヲ取テ晴

賢カク終言ヤマスヨニ八月中旬豊後ノ大友ヨリ山口ニ使僧素

馳走ノ為セ七日ニ能アリ夜ニ入テスム其跡ニ陶押寄旨方々ヨリ註

進アリ陶ハ徳北表ヨリ推寄防府口ヨリハ江良守後宮川里

斐方入ルナリ山口大ニ騷ク是ハ相伯耆ト云モノ相良カ事ヲ陶
ニ告テ陶大ニ相良ヲ怨レナリ美隆難ヲ遁レタメ先法泉寺
ヘ退クヘシトテ廿八日ノ午ノ刻館ヲ出ツ常々タノモニカリ
ニ内藤下野相伯耆陶ニ與スコレヲ聞テ美隆ノ軍士大半落
ケレ法泉寺モ如何ナリトテ廿九日ノ早天ニ美祢郡岩水里
ニ落行此地園部右衛門大夫カ領分ナリ息心寺ト云禪林
アリ暫ク立寄湯漬シタメ其内ニ同部又覺シ小荷駄ヲ
引出シ美隆ヲセテ曉方頼戸崎ヘ落シ後根ノ臺岐ト云
舩頭ヲ頼シ小舩ニ取乘海上一里ハナリ出ル処忽ニ風替テ本ノ
湊ヘコキモトシセコカタノ火埦郡深川村ノ瑞雲山大寧寺ニ
入ル住寺意雪和尚ト終夜佛法ノ終儀アリ夜明ニ陶カ足
輕大將柿並ト云モノ大勢ニテ推シ可九月朔日己ノ刻ニ家人
冷泉判官高豊ト云モノ舩錯シテ美隆自殺ス四十五歳冷
泉高豊一忍軒小幡四郎黒川刑部又補園部刑部大夫称
宣民部又補大田隱岐守園屋其外數十人自殺ス美隆七歳
子柿並コレヲ殺ス此時二条前白尹房三条前左大臣公頼左中
將藤原良豊京都ノ兵乱ヲサケ美隆カ許ニアツテ同ク害セ
ラル中納言藤原基頼右兵衛督藤原親世六利髪ノ逃去相良遠
江守ハ埦^{石別}和野ニ住テ吉見正頼ヲタノム吉見不昔汎前ヘ
逃テ花尾ノ城ニコモル陶野上隱岐守テ討キニツカハシ相良

ニ腹切ラセ首ハ山ニ来ル此乱逆ノ本相良カトカニモアラス
相伯耆守カ表裏ヨリ起サレ臣トシ美隆ヲ弑シ奉ルヒトニ相
カ所為ナリトテ佐波郡ノ内大崎一推寄相夜ニミキレ落去
テ長門國厚狭郡長與寺ニテ自殺ス陶威勢日々ニサカン
ナリ凡大内ハ推古朝百濟王子琳聖太子日本来リ周防國佐波郡
ノ内鞠生浦多ク良墳ニツイテ防列山口岡田ノヲク大内
畑ト云所ニ居住其後兼福寺ニウツルフノ右近シ大内寺
ト號ス其苗裔皆多ク良ヲ以テ称号トスフノ後周防推女
弘世カ子左京大夫美弘號香積寺明德ノ乱ニ大内ヲ立六箇國
ノ守護タリ應永六年公美ヲ恨ニ南泉塚ニ出テ戦死スニカ
レトモ元大内ノ家ナレハ其子持世アトヲ相續ス持世幼若
ニ美弘カ子盛見左京大夫ニ任シテ國務ヲトリヲコナイ號國而ノ
積寺
持世ヨリ三代目左京大夫美與美カヲフクニ將軍タラシメシ
切ニヨツテ從三位ニ叙シ管領職ヲ兼ル美與專文学ヲコノ
ム大永六年五十七歳ニ卒ス號凌雲寺美隆ハ美與カ子也教代管
領大内ヲ家富位高シテ專風流ヲコノミ智ヲ失德ニ違テ放
意ヲ縱ミノ歌ヲヨミ文ヲツクリ公家門跡ニシタシミテ文ヲ
專トセシヨリコノカタ武威日々ニ衰へ唯討歌右職ヲ道ヲ事
トス是ニヨツテ已シカ業ヲ忘レ奢ヲキワメ政道ニクラキカユへ
佞臣日々ニ進ミ奸臣私ヲ事トシテ終ニ家臣ニ弑セラル也

此時大明勅令仰判失フ日本ヨリ渡海ヤミ又南蠻ノ船
来リ耶蘇ノ宗旨ノ起ルモ此比尋也豊後大友宗麟此宗ヲ貫フ

壬子二年 天文三
十一年 春王正月公還自江凡三好長慶未朝○

細川晴元出奔 細川氏綱為管領
三好長慶執其權 ○三月長尾景虎及

美濃帥師与武田信玄 時信去年二月
列髮號信玄 戰于時田信美景敗

走○大友美長至山口○夏六月公賜諱字于朝倉美

景 初名
延景 ○秋七月○冬十月

壬子二年 天文二
十一年 春正月三好長慶方一佐之木定頼美賢

又子和睦シ入伊勢守貞孝トアハカイ事スミ廿八日公帰路

則三好長慶出京メ公ニ拜謁ス 二月三好長慶カ執ニ

告ニヨツテ細川晴元管領職ヲヤメラレト六日細川次郎氏綱

高國 其弟藤賢上洛ス 三月細川氏綱右京大夫ニ任ニ

藤賢右馬頭ニ任ス氏綱則管領職タリシカレト天下ノ

美皆三好長慶カハカイヨリ出ラ氏綱藤賢皆長慶カ下

知ニコカス三好長慶カ家臣松永弾正忠久秀長慶ニカワリ

京都ニ居テ威シフルフ一甚大也細川晴元ハ今度公上洛ニ付

テ則剃髮シ堅田ヨリ逃亡ス其子七歳ニナルルヲ公執立テ

管領タラシメニ一シ約スコレヲ召ツラレ也 同月長尾景

虎信凡時田出張地藏峠シコシ姉聳ノ美景三千ノ備ヲ

アトニノコシ引入ル武田信玄カ兵飯富兵部少輔小山田

備中守小山田左兵衛尉真田一徳斎等美景ヲクイトノ
一戦ニ及武田方敗北ニ小山田備中守戦死ス信玄旗本ヲ
以テ己ヲ伐美景ツイニ敗北ス 陶尾張守晴賢累代ノ主
君ヲ執シ己レカ威ヲ逞ストイヘ氏諸人下知ソフムク者アルヘキ
コヲ思テ大友美鑑カ子美鎮列髮號カ弟八郎ヲ豊後ヨリ
コ子キ大内家ヲツカシメニテ約メ陶阿波守飯田石見守伊香
賀民部少輔其外教輩ヲ豊後一ツメニ八郎ヲ迎ユ三月朔日
八郎三田尻ニ著ク往古大内ノ元祖琳聖太子渡海ノ例ヲ
追テ多ク良濱ニ一日逗留ノ同三日ニ山口ニ入暗賢君臣ノ
禮ヲ厚シ分國皆是ニ屬ス則大内美長ト號ス而ノ晴賢討
髮メ全善ト號ス凡ツ大内美長ハ谷ノミニメ悉ク陶カハカライ
タリ是ニ因テ石見ノ守護吉見正頼埴和野三本松ノ城ニ楯コ
モリテ大内ヲソムク陶大ニ怒テ吉見ヲセム吉見カツキテ降
参シ子竜王丸ヲ山口ニ留メラシム毛利元就モ山口ニソムク
夏四月三好長慶丹波一出勢シテハ上城ヲセムルノ處寄キ
芥川孫十郎池田等三好ヲ皆ノ由有馬カ方ヨリ告クコレニ
ヨツテ五月廿三日長慶カ兵楯一引入也 芥川者長慶妹婿也
六月越前ノ朝倉延景公ノ御諱字ヲ賜リテ美景ト改
左衛門督ニ任シ孝景カアトヲ相續ス
冬十二月芥川孫十郎方ノ兵士多ク三好長慶ニ降参ス

癸丑三年 天文二年 春正月三好長慶来朝○長慶遇于

伊勢貞孝○夏五月小笠原長時帥兵與武田信玄戰于

桔梗原信州長時敗績信玄圍深志城 長時居城 小笠原長

時出奔奥只○秋七月三好長慶帥師攻芥川城 芥川孫

芥川城城陷○細川晴元如京師○八月三好長慶帥師

如京師公及晴元遜丹波○十三日公還自丹波細川晴元質其

子子長慶○九月松永久秀帥師伐波多野 丹波○冬十

月

癸丑三年 天文二年 春正月三好長慶上洛ノ公ニ拜謁ス而ノ

伊勢守貞孝ト會於之政務ノ了ヲ定ム此間細川晴元方ノ

兵ト三好長慶方ノ兵所々ニ相戰テ不止

夏五月武田信玄信州桔梗原へ出勢メ小笠原長時ヲ退

治セトス長時三千餘ノ兵ヲ率ヒ無二ノ一戰ヲ心掛トイ

ヘ長時ツイニ敗北ス同日信玄乃長時カ居城深志城ヲ

取ツム因此長時降參リ乞城ヲワタシテ奥只へ戻ル信玄則

深志城ニ日向大和守ヲ入置テ兵ヲ入 六月九日細川續

政守攻之十川民部大夫一存カタメニ生害セラレ

秋七月三好カ兵芥川城ヲセム八月マテ取カコシ城主孫

十郎頼盡アツカイヲ入テ城ヲアケワタス也廿五日長慶芥川

城ニ入也 八月朔日三好長慶等ニ河内ノ軍勢ヲ引率メ

京都ニイタル是ハ公ヒワカニ細川左京大夫暗乏ヲ京都一

メサレ七月廿八日長慶ヲ追伐ノ沙汰アルニ付テ長慶公

ヲ恨奉リテ也是ニ因テ公乃京都ヲヒラキ丹波一ノカレ玉

ヲ暗え其子ヲ人質ニ出スニ付テ無事相トノイ同十三日

公丹波ヨリ帰京 同月武田信玄山本勤夕暗幸入道之鬼

ニ命メ川中嶋信野カヤシキノアトニ城ヲ繩張セシメ貝津城ト

號也後ニ高坂彈正居城ス是ハ長尾景虎毎年川中嶋

一出張ス此時信玄兵ヲ入ルヘキノタメ也 九月松永久秀

三好長慶カ兵ヲ率ノ丹波ニ入波多野與兵衛尉カ居城

ヲ攻ム香西及ニ三好右衛門大夫政勝神五郎後詰ノケレハ

長慶方内藤備前守戦死ス松永敗北ノ引取

甲寅四年天文二春壬辰正月徹田信長臣平手清秀卒○

二月今川美元乞師于武田信玄仲師与北條氏康對陣

于賀嶋駿云富僧雪舟輸成其班班師○夏四月三好長慶

仲師伐丹波○六月長尾景虎与武田信玄對陣于川中

嶋○秋八月有馬乞師三好長慶日向仲師伐播磨三木別陷

教城○冬十月三好長慶至冷路國○二十丙申八日長慶如

京師○北條氏康仲師圍古河城下故原暗氏于羽田

野相模○十一月赤松乞師于三好長慶

甲寅四年天正二春閏正月十三日平手清秀信

長ノタメニ諫死ス 清秀乃ハ 信秀ノ命ニヨツテ
保傳タリシカレニ 信長山川ニ遊ヒ 放鷹漁獵ヲ事トシ 國
政ヲ不知 清秀且暮ニコレヲ諫トイヘ 信長聞ニ倦ラコレヲ
不用 風俗日々ニ異ナルカニニ 條數ノ書付ヲ奉リ 自殺ノ
其志ヲシメス 清秀于時六十歳 信長其志ヲ感シ 後ニ先
非ヲ悔カレカ 追善ノタメ 嚙字ヲ建立メ 尾州 清秀寺ト號シ 三
百貫ノ寺領ヲ寄附 三月北條氏康兵ヲ駿河ニ出ス 今
川美元尾州織田信長ヲ押ヘシタメニ 三州ニ出陣 是ニヨツ
テ 美元ノ陳代トメ 武田信玄富士川ノ端 賀嶋ト云處へ出
發 故日矢軍アリ 原美農守平虎亂比 比北條家ニアツテ
大ニ働ク 駿河信濃寺ノ長老雪舟扱ニテ 何レモ和談信玄ノ
娘ヲ北條氏政ニ嫁シ 美元ノ女ヲ武田美信ニ嫁シ 氏康ノ
女ヲ今川氏真ニ嫁スヘキ由 約束調テ 谷兵ヲ納ル
夏四月三好長慶自師ヲ師テ 丹波ニ働業 田郡ノ城 臣攻
落メ 歸國ス 是ハ 去年松永敗北ノユヘ也 六月又長慶 栗田郡
一之出勢 七月七日 歸陣 六月十日 長尾景虎 信玄川中嶋 出
張 十二日 虚空藏山城 勸鼠宿ヲ放火ス 信玄 貝埴城ニアツ
テ 兵ヲ出メ アトツ取キラントスルノトコロ 馬場民部大夫 後政 美濃守
思業ヲモツテ 此議ヲヤムルノ處 景虎則兵ヲ入 是ハ 信州
先方等 景虎へ内通シテ ワサト 景虎ヲ鼠宿マテ 働カセ

信玄ニアトシ取キラセ信玄アトシキルトキウラキリセトノ也
此事アラハレ信玄先方ノ四将ヲ罷科ニ奏ス

秋八月三好長慶同谷日向守ヲ以テ播州三木ノ別所ヲ
伐シメ七ノ城ヲ攻落スコレ別所右馬へ款對スルヲ以テ右馬
加勢ヲ乞カユヘナリ 同月織田信長及織田孫三郎信光海
津へ出テ情例ノ織田彦五郎カ勢ト大ニ戦フ下方左近以
下先登メ大ニ勝

冬十月十二日三好長慶決列ニヨヘ洲木ニシイテ豊前守
之康十川民部大夫一存安宅棋持守冬康會於己廿八日
長慶上洛ス 同月北条氏康相見古可成シ文晴氏

父子ヲ相列羽田野ニ置是ハ先年晴氏上杉ニ加勢カノ遺恨也
即晴氏ハ隱居子息美氏遺跡ヲツク 弘治二年左馬頭
美氏遷于葛西谷

凡天文永祿ノ間四海悉ク亂國ナリ関東ニ今川美元武田
信玄織田信長北条氏康上相家里見美弘佐竹美重貞云

ニ芦名盛氏岩城重隆伊達政宗北園ニ致後長尾加賀越中一揆
越前朝倉美濃ニ土岐斎藤近江ニ佐々木浅井伊勢ニ國司伊

賀ニ仁木畿内南海ニハ三好細川カ諍乱播州備前美作
ニ赤松別所明石浦上守喜多カ一族中國ニ陶全善毛利

元就屋子晴久吉見正頼豊後ニ大友肥前竜造寺隆信
薩州ニ嶋持美久イワレモ威ヲ争テ戦ヤムトナリ一日モ靜ナ

ラサル也

乙卯五年

弘治元年

春王正月三好長慶之康

豐前守

帥師伐明

石

播磨國

明石乞成カス三好班カス師

○夏四月織田信長取清洲

城

尾張國織田彦五郎居此

○信長遷清洲城尾

○秋七月朝倉宗高

太郎左衛門尉教景

帥師入加賀國次于敷地山伐ラ賊大獲○八月武

田信玄帥師伐木曾美高以ラ木曾降信玄○九月朝倉宗

高卒于師○冬十月陶全善

尾張守晴賢別墅兼全善

帥師入于宮嶋○

十一月毛利元就帥師襲之全善戰死

丁卯五年

弘治元年

春正月三好カ兵播州明石出張是ハ去年十一

月播州赤松カ方ヨリ三好長慶方へ加勢ツテ明石ヲ退治セシ

ト云是ニ因テ三好豊前守之康安宅撰埴守冬康カ兵河波

淡路軍勢去冬ヨリ明石表ニ出今年正月十日之康自明石表ニ出

三好長慶モ明石ノ大山寺ニテ出勢ニ付明石カ盡和ヲ乞フレヨリ

別所カ三木ノ城ニトリカク別所和ヲ乞カユヘニ各帰國ス

夏四月織田信長尾州借別ノ城ニウツル清洲城乞織田大和守代

代ノ居城也備後守信秀ハ大和守カ一族ナリ信秀武威ヲフルツテ

大和守ト并指レ清洲古渡ニツイテ度々相戦フ信秀乃時清洲ニ織

田彦五郎在城ス去年八月清洲勢海埴戦ニタチニケカフトス清

洲ノ守護代坂井大炊同大膳カカニテ彦五郎ヲモリ立テ不可叶

ト思テ虎山城主織田孫三郎信光信長伯父ニ和ヲ乞テ信光ト臣ニ彦

五郎ヲトリタテテ約ス信光己シテ約シ今年四月十九日信光清洲
ニ至リ大炊助ヲ殺害ス大膳忽逃亡ス信光カ子テ相国ライタ
ニ置ケレハ狼煙ヲ立テ信長ノ兵ニ通ス信長名護屋城ヨリ
乃カケツケ彦五郎ヲ殺害ノツイニ此城ニウツル

秋七月越前ノ朝倉美景カ家臣太郎左衛門尉教景
入道宗簡加賀國ニ登向ス初朝倉彈正左衛門尉孝景號

林越前治國ノトキ本願寺門弟子一人招清ノ吉崎ニ道

場ヲ立テ一國此宗ヲ崇敬ス加賀國ハ富樫外歷代ノ分

國也長亨二年ニ加賀國門徒宗高田本願兩宗ノ出入

ニ付富樫外高田門徒ヲ助長セシメテ本願寺門徒方

怒ラコトミク一揆蜂起シ富樫外ヲ訟歎ト號ノコレヲコフミ

セム富樫外歎マフテ越中ニ退ツイニ自殺シ一國ノ地侍

皆殺害セラル富樫外越前ノ坂江カ一族ナレハ坂江中務

丞景用等一千餘騎ヲ以テ加勢スルノ處富樫外既ニ自殺

シケレハ坂江カ兵引退ク加賀ノ一揆己ヲ怒リ先越中ニ打越

テ越中ヲシタカヘ能登國ニハタラシ白山修理大夫カツキテ

江尻余田ノ庄一浪々ニテ能登一國又一揆ニシニス是ニ

ヨツテ加賀能登越中三箇國ノ兵ヲ催メ永正三年七月

越前ニテ朝倉彈正左衛門貞景號天既ニ危カリシヲ

伯父宗簡カ戦シテ一揆ヲ引退是ヨリ加賀越前ノ闘諍ヤ

ムフナシ然レハ加賀國ハ越前ノ款國ナルヲ以テ宗満ヨ
リク美景ニス、ムトイヘ氏美景武ニ急テ発向ヲ延引ス
ミヲ以テ宗満今年七十九歳ナリトイヘ氏美景一武ヲス
ズメシメテ加賀國ヘ七月二十三日ニ発向シ敷地山ニ陳テ展
テ一揆成三箇所攻落シ二箇処ニテ力戦八月十三日ニ敷
地ロニシイテ一日ニ両度ノ戦アリ十五日ニ宗満病ヲウケテ
越前ヘ引取九月八日ニ卒ス宗満初名小太郎後ニ太郎左
衛門尉致景ト號ス剃髮メ宗満ト云宗満卒メ美景弥
武ニヲコトリ朝倉ノ家衰亡スル也 八月武田信玄木
曾ニ働信元鳥井峠ヲコシヤコ魚ニ陣取ル木曾美高初乞フコ

ノユヘニ木曾美高テ信玄聲ニ約束シ則與係ニ子村備前守山村
新左衛門而人ヲ木曾ニ入置木曾トクク平均ナリ
毛利元就元大内ニ從テ功ヲ立ルカユヘニ大内滅亡ノ後尚
大内美長ノ下知ヲ守テ事ヲツトムルノ處陶全善ニキリ
ニ私ヲカマヘヤ、モスレハ元就ヲ殺害セントス是ニヨツテ元就
ツイニ大内家ト手功ニ及フ陶全善則江良丹後守ニ大軍
ヲサシメ境目岩園ニサシヲイテ毛利ヲ伺フ元就ヒソカニ
問書ヲツクリ江良元就ニ通スルトテ陶全善ニ告シム全善
怒テ不及子細岩園琥珀寺ニヲイテ丹後守ヲ切腹セシメ
弘中三河守ヲ岩園ニサシヲク今年九月陶全善カ兵毛利

元就レ折敷如ヲイテ大戦テ陶カ兵敗北スシカレハ陶
カ兵陸路ヨリノ発向利アラサルカユ一ニ船キヨリヲシワタリ
一戦ヲ可遂カシメ同十月中旬先^{藝川}嚴嶋一ヲシワタテ毛利
家ノ要害ヲ攻落サントスルソ陶カ兵三万餘全姜塔園ニ本
陣ヲスヘ弘中三河守ヲ初トノ軍勢悉ク嚴嶋ニ充満シ舟
キノ兵士海上ヲ防ク毛利元就吉田ヨリ^{イカイ}已斐草津マテ出
勢スワツカ四十ニ可過草津ヲ本陣ト定メソレヨリ三里西
地ノ御前火立ト云處へ陣ヲウツシ小荷駄雜人コトク草
津ヘカヘシ二日ノ兵糧ヲコシニ付シノ九月晦日晚鐘ノコロ
俄ニ陣フレメ嚴嶋ヘシワタルソノ日甚ク風雨ストイヘトモ追

風ナレハ無難嚴嶋ニ著相詞ハカツクトニコヘアイシルニハ繩
タスキ木船ハカリニ挑灯ヲ立テ船中ニカ、リヲ不焼也亥
ノ刻ニ嚴嶋ノ面掲浦敵浦ニツイテ船ヲコトクカヘス浦
ノ谷ヲ敵ノ浦ト云元就ヲ勝ト云吉兆ト甚悦則元就隆元父子吉川
小早川完戸各干別ヲナシテ不^レ思寄方ヨリ鯨波ヲアクル
全姜兵風雪ノ夜目サストモシラサルヤニナレハ前後ニ度ヲ
失テ全姜ヲハシメ不^レ残ヲ死頭教合七千七百余也此戦
九月晦日夜ヨリ始リテ翌十月朔日ニテノ戦也元就ニハ又相シル
シヲカヘテニツキニイタシケレハ款イヨク送テコトククウ
タル元就十月マテ嚴嶋ニ在陣ノ岩石ノ間残ナリ款

ヲ尋コトクノ殺害スルノ此合戦ニ元就数年ノ工夫キ
段尤多シ大内カ家臣重見因幡守イケトラル重見ハ
伊豫ノ任人武谷近因ニタカシ元就コレヲ惜ラタスケント
イヘ大内数代ノ恩ヲ得コトニ陶全善カ怒遇ナリシ
ヲ云テツイニ自害ス弘中三河守父子三人戦死渡辺哥
昌ト云モノ狂歌ヲヨミテ命ヲ助カレリ
カケテモ頼ムヤモリ
ノ繩キスキ命一ツニ
ニツマキ
シテ

丙辰六年弘治二年春王正月星孛于西南○二月松平美春

甚太郎後改右京亮攻日進三河城堅守美春死之○舟藤美龍弒

其父道三○長尾景虎為納上相憲政師師次千手井上

國令里見美弘以水師侵三浦相北條氏康兵大伐之獲

其船○夏六月武田信玄帥師伐伊奈信伊奈ノ諸士降○

三好長慶如堺和泉○秋七月長慶如多喜山松永久秀

享之○明上官鄭舜功来聘○八月織田信長帥兵克其

弟信行勘十郎後改武藏守于稻生尾○九月長尾景虎帥師與北

条氏康對陳于沼田上野○冬十月

丙辰六年弘治二年春正月廿七日ヨリ筭星東ヨリ西ニノル

其光未申ノ方ニサセリ廿五年以前此星出現同月源行十世君

駿河ニツイテ元服十五美元諱字ツミイラセ松平元信ト
號ニ奉ル弘治三年改元康則美元ノ妹婿関口刑部少輔カ女ヲ

嫁シヨイラセラル 二月松平右京亮美春初名甚 国崎勢ヲ率

シテ三州日近ノ城シセノ城主奥平久兵衛尉出テ大ニ

戦美春戦死ス 国崎勢福谷ニ取出シカマヘ酒井左衛門

尉忠次以下ヲコメヨキテ尾刈ヲフセシ織田信長柴田権六

勝家後任修理亮 荒川新ハヲシラモレシメム尾刈勢大ニ敗

テ引退今年元信公国崎ニカヘラセ玉フ弘治三年又至駿列

今年春上相家臣武列岩付城主太田美濃守資正才覚

ヲ以テ上相旗下ノ諸將ニフシマワシ長尾景克ニ従ワシム

因此里見美弘兵船ヲ以テ相列三浦ニ押度ル北條家ヲ

大將富永三郎左衛門尉遠山丹波守海賊奉行梶原備前

守防戦ス里見兵利ヲ失テ船ヲステ逃亡ス 舟藤山城守

正利元元賊ノ寒賊ナリ武勇人ニスクレテツイニ身ヲムテ名

ヲアラワセリ初永丹新九郎ニツカヘ永井ヲコロメ永井ヲ以

テ氏トシ自新九郎ト號ス其後土岐藝頼ニツカユ美濃ハ元

土岐カ領國タリトイヘトモ土岐ノ家次第ニシトロヘ藝頼ニ

イメツテ專歌舞ヲ玩益圖ニ長トス能益 正利ニシツカニ藝頼

ト戦正利初ハ下川キニアリケルカ要害ノ地ニアラサルニ稻

葉山ニ城ヲカマヘ数年土岐下戦土岐ツイニ美濃ヲステハ

浪ニス而ノ正利稻葉山ニ在城ニ入道ノ道三ト云土岐カ

妻ヲ妻トス此妻土岐カ死ニテ懷妊ハ子ヲ山城守死ニテウ

メリ是シ美龍ト云其弟弥四郎喜平次新五郎三人アリ
道三美龍ヲウトミ孫四郎喜平次ヲ愛シ是ヲアトニ立ン
トス美龍遺恨ヲ存シ天文廿三年極月日根野弘就ヲカメラ
イ永井隼人正道利道上弟隈列
金山城主ヲ引入テ道三追出フ終合ヲ
キワメ各誓書ヲトリカワシ極月晦日ニ兩才ヲ美龍カ宅ヘ
招フルコト美龍病氣ノ由ニテ不レ出合日根野出迎兩人ノカ
ヲトリテトコヘアケサマニサケ緒ヲツカヘカケヲキ膳ヲ出スト
キ西人ヲウツ美龍困所ヨリキホコヲ以テ出西弟ヲツイニ
害シ又道三へ楯付美龍又ヲ追出ノ罪ノカレカタキヲ以

テ晦日剃髮ノ玄竜ト號ス凡奔藤家人救可隨者皆可剃髮

ナリ翌弘治元年正月元日ヨリ父子ノトリアイハシニレリ道三ハ楯
葉山ノ山王ニアリ美龍ハ山下ニアリ道三山上ノスマイ雜叶ニ
付テ鷲山ト云山へ引サカリ毎度ノ戦アリ父子ノトリアイ
三年也今年四月廿日美龍牧村牛之介ヲ軍奉行ト定メ
キノ次左衛門尉兒牧原太西大將ニテ出勢道三カ先キハ
道化六郎左衛門也道化ワサト人数シカルトヒカセ美龍
方ワカキノハヤリシナレハ必急ニ可付ソトキ横ヨリ道三八
夕本ニテ可被步取ト約ス道三前日ニ自美龍カ備ヲ見コ
レハ定テヤセシトコカ日根野也ニワサナルヘニ備立ノ休常ニカハレリ
美龍ノ備アトソナヘヲノコス
奔藤家ニトラテ備ト云フ
我討死明日ニアリ我步取スト云凡彼

等如此相輔佐セハ齊藤ノ家信長ニ馬ヲツナリヘカラス齊
藤家ノ吉事也ト喜未子敵山ニ兎ニテアリニ方一遺書ヲ
ノコス如其言明日戦死道化六郎左衛門尉モ亦死ス三
六此戦ニ義龍ハ山城守ヲ生捕ルヘシトイハラクルユ一次左衛門
是シクニフセケルヲ兎玉原太麿忽ノフリニテ生害スルナリ
美龍即美濃ヲ領シ左京大夫ニ任シ公謹ヲ字ヲ賜
部大 夫 美龍ト號ス 改一
夏六月武田信玄信元伊奈ニ出勢ノ九月ニイタルニテニ伊
奈ノ諸將ヲ退治セシム然ノ今年信則全ク武田カキ裏ニ
屬ス 同月三好長慶堺ニ到テ父基長二十五年忌
追善アリ

秋七月長慶松永彈正カ多喜山ニ至ル松永經營ヲヒタシク
觀世大夫核樂ヲナシソノ外千句ノ連歌アリ 同月
大明ヲ使者鄭舜切豊後ニ来リ記紫ノ海賊大明ノ辺
境ヲ監坊スルヲ告ノ乃返簡アリ 八月織田信長尾州
稻生ニシイテ弟武藏守信行ト戦フ今年五月林佐度守
同美作守兄弟柴田勝家ニ相討メ信長ノ舍弟武藏守
信行ヲ比右護屋ニ在城セルヲトリ立信長ニ逆心ヲ企
タフ信長コノ事ヲキイテ舍弟安藝守信時ト共ニ右護
屋ニ至テソノ体ヲ伺フ林美作守コトキ信長ヲコロサント

云ニシテ佐渡守堅トシテ信長無子細清例ニカヘルソノ翌日
武藏守ツイニ信長シソムク是ニヨツテ信長清例ノ東各塚
ニ要害ヲカマヘ佐久間大學ヲ入置八月廿一日暴雨連日
川水甚出ケレハツノ便ヲ伺テ柴田并林各塚城ヲセム信
長清例ヨリ後詰メ川ヲユヘコレヲ救テ稻生ニツイテ大ニ戦
信長方既ニ危カリシヲ森三左衛門尉可成カハカリコトヲ
以テ信長勝利ヲ得其後信長ノ母儀和儀ヲ入信長信行
和睦ニ柴田勝家都汎藏人刳髮メ信行ヲトモナイ清洲ニ
降参ス信長其罪ヲユルシモトノコトソ各護屋ニヨラシム
九月長尾景虎上ル沼田ニ出勢北條氏康對陣景虎兵

ヲ入ル今年美氏ヲ下総國園宿ニウツシ古何暗氏ノ遺跡ト
ス北條氏康カハカライ也

丁巳七年弘治三年春王正月織田信長殺其弟信行○三月

返簡于明王○毛利元就帥師伐山口大内美長遂自殺

○夏四月武田信玄帥師敗長野信濃千賀尾上○五月長尾景虎

帥師次川中嶋信武田信玄帥師蒞陳○秋七月大友美

鎮帥師伐秋月秋月方種自殺○八月東風撰肆國播磨

國暴鬪○武田信玄帥師陷上刈稻○九月天王崩○冬

十月三好長慶帥師伐丹波○今川美久殺其臣戸部新左

尾外衛門尉子
笠寺城

丁巳七年

弘治三年

春正月柴田權六勝家織田武藏守信行ヲ皆

テ信長ニ屬シ信行重テ逆心ヲ企アルヲ告クコレニ由テ信長

密ニ虚病ヲ構ヘ蘇芳ヲ煎シ是ヲ飲ニ便ニ血ヲ下スト称ニ

病危急ナレハ家督ヲ信行ニユワリ與ヘニテヲ村井長門守ヲ以

テ母儀ニ告ク母儀大ニ驚急キ信行ヲ清洲ニテ子ク信行至テ

信長ニ對面セントス山口飛騨守長谷川橋助等コレヲ害セントス

ル体テニテ信行即母ノ子ヤニ逃去ル池田左三郎信輝廊下ニテ

ウケテ信行ヲ殺害ス 三月大明王へ返問ヲクテラル

僧妙安コレヲ草書ス 同月毛利元就山口ニ出勢大友

ノ美長居館ヲアケテ長府ニノカル是ニヨツテ防別山口平

均ス乃長府へ押寄美長カ所籠ノ勝山ヲトリニテ和睦ノ上

美長谷ノ内長福院へ入寺ノ自殺ニカレハ防長悉毛利ニ屬

ス豊前國高橋長野元就ニ屬ス元就豊前門司城ニ仁保

右衛門大夫ヲ入シキ元就父子防別山口ニカヘルソノアトへ

大友宗麟大軍ヲ率メ豊前へ出門司城ヲ攻ントス申之毛

利元就父子為後責シシワタリ船手ハ児玉丹藏元大將

也而メ教日對陳小早川隆景元戸安藝守隆家一陳ニカハ

リ大戰ツイニ大友兵敗北ス毛利父子長門ノ岩國ニテ引トル

夏四月上州ノ諸將長野信濃守ヲ大將トシ武田信玄ト信

州ニカシリニ戦フ武田信玄子美信大將トシ大ニコレニ勝五月長尾

黒虎信州川中嶋出張ノ武田信玄ト對陣



秋七月大友美鎮入道宗麟秋月汎紫ヲ退治ス初大友
九列ノ探頭トメ豊汎肥ヲ從フルノ処秋月汎紫氏ニ大友ニ
不從度々ノ合戦ヤムナシ大友武威ヲフルト今年七月

七日秋月ノ居城古所山ノ押寄テ大ニ攻秋月種方カ戦ニ

テ同十一日ツイニ自殺ス汎紫左馬頭惟門コレヲキイテ已

レカ城ニ火ヲ放テ逃亡スコノユヘニ秋月汎紫カ領分コトク

ク大友ニ從フ也秋月ハ漢高祖ノ後亂也對馬守春実天

度ノ比錦旗ヲ賜テ逆臣純友ヲ討罰ニ征西將軍ク春

実ヨリ七代岩門權守種成汎前秋月ニ住ニテ初テ秋月ト稱

號ス種方ハ春實ヨリ廿七代ナリ種方歿死ノ後孫汎

前守種実暗種子暗種者種方子也周防山口ニ浪々メ毛利元就ツメ

ニテ還住ヲ待也汎紫ハ尊氏卿ノ子直冬ノ子孫也

八月東風甚ニ後南風高塩撰ムノ浦々播呂明石ニアカル

屋崎ニテ流死六十餘人八十三年以前高塩米直金一兩五斗同月武田

信玄上及箕輪ニ出張メ西上野ノ毛作ヲフリ燒働アリ十

月兵ヲ入ル九月五日百五代後奈良院崩御十一月廿七日

皇子方仁踐祚也

冬十月三好長慶丹波へ兵ヲ出シテ龍藏寺ノ城ヲ攻ヨトス

今年今川美元家臣戸部新左衛門尉ヲ吉田ニヲイテ殺ス

戸部八尾洲笠寺城ヲ守ル信長其四死回シコシラ其六三左衛門
門ツ商人ニイタシ謀書ヲツクリ美元ヲ修ル義元ヲシテ信ノ
戸部ヲ招キ不亂実不否コシテ害ス是コリ今川カ兵威衰フ
今年毛利元就豊後ノ大友ト戦不止付將軍家ヨリ聖
護門跡道隆ヲ元就カ方ニ遣シ久我大納言原通奥ヲ大
友ニ遣シ和睦セシメ元就ノ嫡孫輝元ヲ大友カ婿タラシム
八月元就嫡子隆元卒

戊午八年永禄元年春王正月公及細川晴元遜于朽木○夏

五月公及細川晴元帥軍次于坂本○長尾景虎与武田

信玄會于汎澤川輸成遂不果○六月公及晴元帥軍

次于如意嶽三好長慶松永久秀帥師如京師○公次于

將軍山佐々木美賢帥兵来會与三好松永兵鬪不止○

閏六月星字○秋七月三好長慶孫七之康豊前安宅冬

康淡路守民部十川一存大夫三好美長帥師来于塚浦○大早

○織田信長帥兵與織田信安伊勢戰于浮野信安敗北○冬

十一月公与三好長慶平公還自將軍山○三好長慶

来朝○安見美作守以飯表城叛其君畠山高政高政出

奔和泉國

戊午八年永禄元年春正月三好松永武威ヲ專シ京都靜謐セ

又故公及細川晴元氏江尻朽木ノル玉ヲ

夏五月三日公及ヒ細川晴元江尻坂本一兵ヲ出サル三好
長慶則出京メ江尻ヲサ、工。同月長尾景虎武田信玄ト
無事ノソメ汎テ川ヲヘダテ、對面ノ處景虎サキタツテ下馬
ス信玄馬上ニタイテ景虎シルニカラサル間下馬ニ不及ト云
景虎大ニイカリ長尾ノ先祖梶魚景時ハ富士ノマキカリノ時
武田ヨリ上座也トトニ近年ハ上杉管領職ヲウケトリテハ
及ニ威シフルフ處信玄如此次第無礼ノ至ト云フイニ無事
ヤフレ則對陣メ同六月ニテ在陣也。六月公及晴元如意
嶽ニ陣取ニ好カ兵提元ヨリ上洛ス將軍家晴元カ兵將軍
少ニ陣ヲウラス江尻佐々木六角兵コレヲ助ク同月九日同
六月五日三好方ト戦アリ三好カ兵栗生ト云モノ鎗小牧ト
云モノヲ抄取。同六月廿五日慧星出現七月初ニイタル
秋七月阿尻ヨリ三好孫十郎慶長豊前守之康安宅冬康
十河一存三好美與又曰美良各居崎ニ至ルソヨリ坂津ニ至軍
勢甚シヒクシ。同月十二日織田信長岩倉ニ燒御大山ヨ
リ織田十郎左衛門尉ハセ加テ凡ノ三千余岩倉ニハ織田伊
勢守在城ス伊勢守三千餘ノ兵ヲ率メ即淳野ニ出テ戦
信長勝利ヲ得表三左衛門尉中条小一郎等カ戦戦アリ
冬十一月江尻六角家アツカイヲ以テ三好長慶方一和談
公相國寺一渡御トビ三好長慶上洛メ請ス晴元追電ス

同月晦日畠山高政ト家臣安見美作守出入出来ニ付高政
河内国高屋城ヲ出テヒソカニ南泉堰ヘコエ安見乃高屋城
ヲモテカクメツイニ高政ニツムク 安見ハ飯
志ノ城主 十二月公二条本
覺寺へ渡御三好長度松永久秀及川ニ歸ルコレニヨツテ河
内衆モ下國ノ世上靜謐ス

己未九年 永祿二年 春王三月長尾景虎帥師与武田信玄對

陳于川中嶋○夏六月三好長度大攻飯表城○八月長

慶帥師納畠山高政于高屋城○冬十二月長尾景虎帥

師拔沼田鹿橋城 共上 ○織田信長攻大高城 尾乃鶴殿
長持守之 神君入釋於

城中己未九年 永祿二年 春正月長尾景虎信長川中嶋ニ出勢武田

信玄ト十五日對陣ス

夏五月根来寺衆十川一存ト合戦長度カ兵十川ヲノスレ

テ兵ヲ泉而ニ出ス 六月三好長度二万ノ兵ヲ率メ河内

ニ勤メ安見飯表ニ引籠ルコレハ去年冬安見美作守畠山

高政ヲ皆テ高政高屋城ヲ落三好方ニ来テ頼ムカユヘ也

此時三好カ武威ニヨツテ八月畠山高政高屋ニカレ乃細

川氏細ク城瓦淀城ニ入シク

庚申十年 永祿三年 春王正月天王行即位之禮 毛利之就
執美之 ○

毛利之就任大膳大夫○三好長度来朝○二月三好長

慶任修理大夫義長任礼前守松永久秀任彈正少弼○

三月長尾景虎帥師會上相、諸將入テ小田原相模國 ○夏

五月長尾景虎奉朝、公賜諱字補關東、管領職 ○今川美

元帥師伐尾足次干沓掛令源元康公初名元信弘治三年改元康 攻

九根城尾城陷元康公守大高城 ○織田信長帥兵襲美

元干ツケハサミ桶間義之敗死 ○園部五郎兵衛尉守鳴海城 ○源元康

公復歸于園崎城 ○源元康公兵与水野信之下野 闘干

石瀨 ○安見乞成干畠山高政遂皆三好 ○秋七月三好

長慶及之康帥師伐河内園根末寺授高政 ○源暗氏卒

○九月畠山義則能良守護 去奔越後 ○冬十月畠山高政与

三好長慶成長慶遂取飯丸安見居城 高屋城高政居城 畠山安見逃

七千塚

庚申十年永録三年 春正月御即位ノ禮行ル此料毛利乞就調

進スコノ賞ニヨツテ大膳大夫ニ任シ錦ノ直重菊桐ノ紋ヲ賜

後陸奥守ニ任ス毛利本ハ大江姓大膳大夫廣之カ後胤也

同月十日三好長慶淀ニ至リ十六日上京ノ公ニ謁ス

二月四日三好汎前守長慶修理大夫ニ任シ子息孫二郎美長

汎前守ニ任松永久秀彈正少弼ニ任シ臣ニ御相伴衆アリ而各各川ニ至ル

三月長尾景虎相州小田原ノ城ヲ攻ム景虎去年夏ヨリ上民ニ

発向シ上相旗下ノ諸大将ニ武威ヲ示シ管領職ヲウケ

トリケレハ園宿、美氏小田原ノ北条ヲ追罰ノ由フレマワシ去

年冬上及沼田ノ城厩橋ノ城ヲ攻フトシ小田原勢ヲ追立今
年正月関宿ヲ責ムヘシト幾シ先関宿ノ警固結城ノ暗
朝カ結城ノ城ヲセメシム暗朝コレヲキイテ関宿城ヨリ結城ニ
カヘル老臣柔田中務太捕景虎ニカタラワレ暗朝ヲ道ニサヘ
キリウタントス暗朝勇武ノ大将ナレハ是ヲ事トセス已レカ城
ニユイテ堅固ニ籠城ス景虎幕下ノ諸将凡ソ八十六人軍
勢十萬ノ著到ニテ岩付ノ太田ヲ案内者^{上野國}新田ノ
長尾館林ノ由良茂呂ヲハシノ近習ニウタセ武列神奈川ニ
着氏康ヲサト人衆ヲ不出然レハ道ニキサスモノナクシテ
小田原城蓮池門ニテ推寄武威ヲフルフ城堅固ニモリケ
レハ攻落ニ不及鎌倉ニ參詣シ鶴岡ニ社參スヘシトテ耳繩
ノ城ヲハ長尾彈正ヲ以テヲサヘサセハ幡宮ニイタル前々
管領社參ノ例ヲ追テ儀式ヲトノフ梶原ハ太カヲモツ
例ナレト梶原ノ名字アラサレハ三樂カ弟ヲ俄ニ梶原原太
ト號シ太カヲモメセ社參ス取々ノ辻回道々ノ經營モツトモ
嚴重也コトニ怒ノ城主成田下總守長康大町ヨリ馬ヲ立
テ以前ノ家例大将ト一度ニ下馬ノヲナレハ景虎ヲ待テ
下馬セム景虎大ニ怒テ成田ヲ列ヲロシ面目ヲ失ハシム成
田其日ニ鎌倉ヲ立テヤカニ小田原ヘ降ヌコレヲ見聞ノ諸
將元ヨリ上相家ノ大マウナルヲ見付タレハ成田千騎ノ大将

サへ如^レ此景虎へ出仕ハ末々無心之トテ悉ク引拂フ景虎
ワツカニ萬ハカリニナリテ武足ノ府中へ引取六所明神ニ参
詣シテ上足厩橋ニ入フレヨリ戦後ニ帰陣

夏五月長尾景虎上洛ヲ企武田信玄へ使ッ立留守中互
ノ戦ナカラシテ約シキ勢ノ中大剛強ノ輩三百人ヲスクリ
召ツレ北国通リニ上洛ニ四條ニ旅宿ヲカマヘ三好長慶ニ
案内ヲ啓ス長慶ハシメハ許容セサリシカ景虎カ武威ニテ
ソレ執達メ公ニ謁セシム公則諱字ヲ賜リ関東管領ニ補
任アリシノ響錦直垂ヲ賜フ景虎申上ルハ三好我意ヲフル
フノ間来年ハ云テ戦後へ渡御ナシコイラセ景虎上洛ノ三
好ヲ退治セシメテ御帰洛ナシコイラスヘシト約ス 同月

今川義元尾足ニ出張ス軍勢凡ソ四萬餘五月十七日ニ参
足池廻對ニ著陣ス源元康公一千余騎ヲ率メ相從フ美元
近年尾足奈向ノ催アリケルニ織田信長鳴海也ニ要害ヲ
カマヘ所々ニ兵ヲ入置丹家城善照寺城中島城丸根鷲肆
鳴海中村大高畚掛等也シカルニ大高畚掛モ今川方ニ内
通メ今川カ兵ヲ引入コノユヘニ尾足ヲ伺カハシカシノ今年五
月出勢ス而メ十八日元康公尾足丸根城ヲ攻ヲトシ玉フテ
城主佐久間大守戦死ス十九日元康公ヲ大高ノ城ニ入テコ
レヲ守ラシム

去年美元鴉殿長助ヲシテ大高城
ヲ守ラシメ元康公ヲシテ丸根ヲ大高ニ入シム

此事尾足へ

キコケレハ信長則出勢ス美先驚津九根ヲセンヲトシ桶
問ノ松陰ニ本陣ヲスヘテ飲食ニ宴ヲナスノ日甚風雨ス
信長ワツカ三千ノ小勢ヲ率ニ熱田ノ神前ニ願書ヲコノ群士ニ
必死ヲ示シ岡道ヨリ出桶川ノ後ノ山ヨリ義元カ本陣ニ
突入美元不意ヲウタレツイニ戦死ス毛利新々美元ノ頭
ヲ得ル今川カ兵ヲオトルヲ二千五百餘コノ勢ニ大高番
掛池鯉鮒鳴海邊コトクノ明退大高ハ元康公守之水野
下野守信元ヲ美元オチ死ノテ告集リ弥其实否ヲ乱ノソ
ノ夜月ノイヅレヲ待テ列トリ玉フト也鳴海ハ岡部五郎

兵衛尉後改 在城ス諸城崩退トイヘ氏鳴海ハ城堅ニモル

ノ廿日餘信長其義志ヲ感メ和ヲ入ツイニ崩ワケス此時岡
部美元ノ頭ヲ乞ウケ信長コレヲ與フ岡部ツイニ鳴海ヲア
ケ苅屋ニカ、リトヨルトキ苅屋一ツニヨセ城主水野藤九郎ヲ
ヲヒヤカシ藤九郎ヲ討捕ル城ステニ危カリシヲ水野兵堅
ノ守テ城別條ナシ氏真岡部カ美勇ヲ感メ六月八日ニ
感書ヲ與フ 同月廿三日原元康公三列岡崎ニ還任
シ至フ元康公今年ニテ駿府ニ人質トシテ居住ニシクダリ
ヲリ岡崎ニイタラセ玉フ今度美元オチ死ニ付テ則岡崎ニ還
任ニシマス御年十九 水野下野守信元ハ織田信長屬
スコノユヘニ石箇瀬又ハ苅屋ノ城外ニツイテ元康公ノ兵士

カ戦ス水野信元ハ元康公ノ伯父ナリカユヘニ西家本ヨリ親
戚ノヨシミアリ況ヤ旧識明友ノ同ナリシヲ以テ互ニ相ハケ
テニ戦フ同月富山尾張守高政女見美作守ト密ニ和談
メ三好シノムクコレニ因テ長慶并之康実休兵ヲ率ノ河内至
ル根来寺方富山ハ助カ日々ノ戦富山女見方不利

秋七月三好長慶大將トノ豊前守之康入道実休河波ヨ
リ居崎ニ至リ軍評定ノ七月三日ニ河内ニミタレ入方々ニ相
戦フ富山軍不利八月九月中度々河内ニテ戦アリ

同月十八日古河御取原暗氏卒ス暗氏ハ北条氏綱カ聲也
九月十六日能州守護富山修理大夫美則家臣ニ楯イメ
サレテ越後ノカレ去リ上掲輝虎ニ還任ノコトヲタム美則ハ
富山美隆五代ノ苗裔奥林院ヨリ四代富山修理大夫美
則カ子也数代能州ニ守護タリ其下ニ遊佐神保三宅温
井平ハイミ善田熊本甲斐庄ヲ八臣ト號シ富山ヲ輔佐ス長家ハ能州
ノ先方ニテ是ニメ富山カ臣メリ弘治元年江呂佐々木美
賢カ女ヲ美則カ妻トス美則専色ヲ好ミ國中ノ美女ヲアツ
メ人民ノ妻子ヲ奪フ是ニ因テ國中大ニウトシ八臣ニキリニ
諷諫ストイハレ不用之ユヘニ美則女房トヲ引具ニテ遊兵
ニ出タル時分八臣示シ合テメテイタシ婦子美高ヲ相續セ
シム城ノ留守ニ熊本太左衛門有之ヲ防トイハレ美高

ノ命也ト称シフイニ城ヲウケル美則ハ弟織部正美辰ト
Eニ船ニテ越中ノ魚任ニ着リヨリ越後ヘユルニ

冬十月紀元根来寺ノ衆徒畠山ニ合カトメ河内ヘ出張

ストイヘE三好方ニウチ負敷北スコレニヨツテ畠山カツキ

十月廿四日飯表城和睦ヲ入安見美作守堺津ヘ退ク北

七日高屋城ヲアケテ畠山高政モ堺ニ至ル而メ十一月十

三日ニ三好長慶飯表城ニウチリ三好豊前守実休高屋

城ヘウツルナリ

辛酉十一年永祿四年春王正月三好美長来朝補相伴衆

賜諱字御紋桐松永之秀賜御紋〇二月美長進干鹿苑

寺公賜酒穀〇源元康公兵与水野信元兵攻撃干石瀨

石川教正上高木清秀攻撃〇元康公令松平好景大炊伐板倉彈正忠

干中嶋卿三板倉逐出奔〇三月三好長慶来朝〇公渡

御干三好美長弟〇源元康公与織田信長城〇夏五月

三好長慶因細川晴元干普門寺撰津国畠田晴〇織田

信長帥兵与長井甲斐日比下野敦干表部美濃長井日

比敗死〇秋七月佐々木定頼帥兵次于將軍山与三好

美長闘干京師〇畠山高政帥兵會根来寺衆徒次于岸

輪田泉援佐々木〇三好之康豊前帥師如泉列〇九月

上相輝虎帥師次于西條山武田信玄帥師次于海豆城

大哉千川中嶋○冬十月

辛酉十一年

永禄四年

春正月三好美長

長慶子

上洛梅津ノ長福

寺ニ居ス廿四日美長出仕メ御相伴衆メリ

二月朔日公

御諱字并御紋桐ヲ三好美長ニ賜フ松永久秀モ桐卿

紋ヲ玉フ廿三日美長鹿苑寺ニ遊行公酒肴ヲツリコレヲ

迎フ美長即御取ニイリ酒宴アリシハ今度ノ賀儀ニ三

好美長カ立賣ノ宅ニ假屋平張ヲラケテ公ノ度卿ヲ催ス

同月板倉彈正忠三州中嶋ニアツテ今川氏真カ味方ムルカ

ユヘニ元康公ヨリ松平大炊助好景ニ命ノコレヲ攻シム彈

正忠敗北メ圍城ニ楯竈元康公自兵ヲ帥テヲシヨセコレ

ヲ攻玉フ板倉カツキテ東三川へ逃亡ス 三月公伊勢

伊勢守河列飯表ニ使トシテ長慶ヲ召ス廿六日長慶上洛

ノ美長ニ御諱御紋ヲ賜リ且美長カ宅ニ度卿アルキヲ謝

ス同廿九日三好美長宅ニ度卿立馬帽子直垂檜皮色ノ

御装束ヲ召塗輿也路次ニ致言固ノ武士ヲ設ケ之ニ篝ノ

役アリ細川右馬頭藤賢

氏細

御太カノ役メリ筑前守美

長一族ヲ率テ衛門ノ外へ出ラ迎へ来ル細川右京大夫氏

綱三好修理大夫長慶縁下ニ候ス其後欲物品セマリ今日

十七畝ノ宴アリ弟四畝ヨリ御簾ヲ上ラレテ榎樂十

四番纏頭鳥目一万疋經營羨ヲフクセリ

今年春源元康公織田信長ト和睦アリ水野信元コレヲト
リ扱テ去年今川義元戦死ノ後ハ三石岡崎ニ御在城アツ
テ信長衆ト度々戦アリ水野下野守信元ハ信長ニ屬メ石
瀬苅屋ヲイテ両家ノ兵士鎗ヲ合セ戦ヲ挑ム今年信長御
和睦互ニ急ヲ救玉フヘキトノ事ニテ両家ノ確執ハヤミス
今川氏真怒テ三洲ヲ攻ントス

夏五月細川晴元入道メ一清ト號スカキテ三好長慶和ヲ請撰ル富
田普門寺ニ籠居長慶富田左ヲ與テ普門寺ニラケリ 同月十日
斎藤美濃卒子竜與相續同月十三日織田信長尾州西郡へ出張

長井中斐守日比下野守ト美濃國森部ニ戦テ長井日比

両將ヲ抄トル前田孫四郎利家同明ヲコロシメル罪ニ因テ
改易セラレケルカ去年桶間ノ戦ニ一番頭ヲトリ来ルトイヘ
ル信長コレヲ不免ツイテ又頭ヲウルトイヘル猶不免此度去
部戦ニ首ニテ得テ実檢ニ入信長大ニ感悦

秋七月江州佐々木定頼時元カニ男 定頼女嫁時
元政定頼孫ヲ取立テ將

軍トシ陳ニ畠山高政安見美作守根来寺衆一味ノ泉列
岸和田ニ出張スコレハ去年十川一存死去ニツキ彼等又三好ニ
款スコレニヨツテ三好美長梅肆在京松永久秀ハ奇院ニ
陳取テ白川表ニテ矢軍日ケアリ泉列ハ三好実休大将ト
シテ安宅冬席三好山城守同下野守同備中守篠原右京進吉成

勘ムコノ外高屋ノ守兵皆泉州ニ趣テ對陣也

八月上旬上槁輝虎一萬三千ノ兵ヲ率ニ信元川中嶋ニ出
張メ西條山ニ陳ヲトリ貝肆ノ城ヲ攻メトス武田信玄二萬
ノ軍勢ヲ以テ同廿四日川中嶋ニ著陳シ西條山ノ下雨ノ
宮ノ渡シトリキリ越後ヘノ道路ヲトムル一昔輝虎戰テ
イトニサルカニ同廿九日信玄貝肆ノ城ヘ引入テ九月九日
テ對陣シ川互ニ足挂シカケカ、ノヲ燒テ戰ヲ挑コノ比
武田ノ家ノ弓矢切者小幡山城守去ル六月病死魚美隈守
當夏ワリカ嶽ノ戰ニ十三箇所キス負疵イニメイヘヲ
ルユヘ在陣セス侍大將ニ馬場美濃守足挂大將ニ山本
勘久兩人ヲ以テ軍議ヲナシメ甲州勢ヲニツクケ一萬二千
ヲ以テ西條山ヘツシヨセ相戰八十八信玄長信又子イニ率
メ沓摩川ヲコシ三牧畠ニ陳メ謙信西條山ノ軍ニ勝テモ又ハ
負テモ越後一可引入ツノ所ヲ支テ無ニ一戰ト備シハリヲ
ナシ九月十日ニ出軍ノ催ナリ然レハ九日貝肆城ニ人氣多
ク立シ謙信見切テ九日ノ夜ノ亥ノ刻ニ西條山ヲ引ハラ
イ雨ノ宮ノ渡ヲコシテ夜ヲアカス武田方ハコレヲ不知先勢
十備一萬二千西條山ヘツシカケ関ヲ棄シ戰ヲ挑ム信玄旗
本ハ三牧畠ニ備シ立テ先勢ノ勝負アイヲ待其朝霧ヲカ
クメ前後更ニミワケサル中ニ霧ハシケレハ謙信ノハ夕先見ユ

信玄浦野ヲ出メモノミセシム浦野謙信ハ引取トモヘテ
人教ヲコソシ犀川ノ方ヘ趣クト云山本勤今出テコレヲミキ
リ車懸ナリト知テイフキ備ヲ立カクメケル處ニ謙信先
勢柿崎新登田ヲハシメ一キキリニシヨセ西將相戦フソ
ノ間謙信旗本ヲ以テ武田義信ヲ追崩シ信玄ノ旗本ヘ
ヲシカケ謙信モヨキノ胸肩衣ニ白キハケニキニテ信玄ト自
身勝負ヲ争フ信玄旗本ハ不退其餘九備敗北シ侍大
將左馬助信繁諸角豊後守足柱大将山本勘久入道々
鬼初鹿原五郎討死信玄美信又子臣疵ヲ蒙リコトハ
ク敗北スヘキ處西條山ヘ出向処ノ甲州勢十備アトヨリ
カケツケルユヘ謙信不可メ引退越後勢ヲウツテ三千餘也
謙信後備耳槽近江守景持ヒレカ備ヲチラサス靜ニ引取高坂
彈正カ、ツテ切久ツス而メ耳槽犀川ノヲチメ三日逗留シテ
敗軍ノ士卒ヲアツメ帰陳ス

壬戌十二年

永祿五年

春王二月武田信玄帥師至松山○三

月北條氏康與武田信玄帥師圍松山城城陷上杉憲勝

降于北条○上杉輝虎帥師陷私市城武藏○三好実休

帥師与畠山高政戦于久米多衆実休戦死○河内紀伊

兵圍飯森城三好長慶堅守○夏五月三好康長山城安

宅冬康

治路

松永久秀

丹正

帥師與畠山高政大戰于教

奥寺_{内河}高政師大濱○織田信長帥師与斎藤龍興戰于
賀留美_{美濃}國龍興敗○秋九月源元康公帥師擊殺板倉
忠_正攻_屠佐服八幡岩○酒井正親_{雅樂}襲_取西尾城○
吉良義照以東條降于元康公○信康卿自駿河因還岡
崎○冬十月

壬戌十二年_{永祿五年}春二月武田信玄武列松山出勢ス北

條氏攻加勢ヲ乞ハユヘ也初ノ松山城ハ上田左衛門佐己

ヲ築テ難攻多彈正久シクコレニ居住其後太田美濃守

資政在城_{資政利變號三樂}天文十三年四月廿日川

越ノ夜軍ノトキ資政此城ニヤキ松テ退ク其夜北条氏康

コノ城ニ入テ即芳賀伊豫守ヲ入置上田又二郎相

ツイテ居城ス天文十三年太田資政コレヲシノヒトリ二度松山ニ

在城ス資政カ元信濃守岩付城ニテ病死無実子ニ

ヨツテ資政即岩付ニウツリ松山モ資政カ城トシテ

要害ヲキヒシクシ上樞憲勝ニ己カ被官二千餘人ヲサシソ

ヘテ籠城シ上杉ニ一味シテ輝虎ノ旗下タリ去年冬

北条氏政ヨリ武田信玄ニ示シ合セ十二月十一日氏政

出勢シ松山城ヲ攻ム因茲太田資政一人ノ後政

不叶上樞輝虎并ニ里見美高ヘ加勢ヲ乞輝虎十一月

廿七日ニ越後ヲ立越後深雪ノユヘ人馬長途シテ

ミワケ二月上旬ニ武州石戸ニ著武田信玄二月ニ松山ニ
著テ北条氏康ニ加ル上相輝虎既ニ武州石戸ニ著
陳トキユヘケレハ北条武田カ兵城ヲカコニ通路ヲ絶ツ
寄手ノ兵勝式部少輔ト云モノ太田資政ニ旧識ノ者ナ
リ此者城中へ入タ輝虎後詰三月ノ末ナラテハアルニ
シキ申ツカメツテ城主和睦ノ取アツカイヲナセリ是ニ
上相憲勝和睦相調テ三月三日ニ城ヲワタシテ出ツ
輝虎ハコレヲシラス里見義高太田資政壬生守都宮
ヲカリ催メ同六日ニ松山へ出張ス城既ニ落ケレハ輝虎
大ニ怒太田資政ニ向テ如此大臆病ノ者ヲ城ニ入置
ユヘ輝虎後詰ノ面目ヲ失フ也ト責メル資政大ニソレ
松山城ノ兵并兵器糧ノ書付憲政カ人質ヲ出輝虎
資政無越度ヲ聞トケ則憲勝カ人質ヲコロシヤカテ
北条武田カ陳ニ向テ足控ヲケ挑ム北条武田ハ其夜速ニ兵
ヲ入輝虎怒テ此邊ニ款城アラハカ攻ニメ此憤ヲ散セシ
ト案内シ同ノ松^{キサリ}市城ニ小田伊賀守累代居住ス者サ
シテ北条カ方人ニアラサレ忍ノ城主成田下総守カ弟
ナレハ是ヲカ攻ニスヘシト下知シ一日一夜攻戦松市ノ城
邊ヲ要害ニイタシ堅固ノ城タリトイヘ輝虎自水鏡
ヲ考テ武畧ヲメクラシワイニ城ヲ攻落ス城主城ヲステ

テ小田原ニ逃亡ス輝虎是ニ色ヲナシ上列尻橋ノ
城ニ入り城主長尾弾正忠入道謙忠此度松山ノ加勢
ノ催促ニ不應ノ遲參スルヲイカリ是ヲ切腹セシメ北条
ヲ以テ尻橋ノ城主ト定メテヨリ小山ノ城ヲセメ降參セ
シメ佐野ノ城ニシヨセ三日三夜攻テ城兵コトクノカ
屈シテ人質ヲ出ス城主佐野小太郎政綱輝虎ニツク
ストイヘ凡家臣等ヤモスレハ北条へ内通スコノユヘニコノ度
松山ノ加勢スレハ也上相憲勝屬北条氏康子武列汎都
郡三百貫 憲勝初號七反七郎太田資政
是ヲ取立上杉憲勝ト號 氏康勝式部感書ヲ與へ松山
城へ上田又二郎ヲ還任セシム 上田又二郎別號龍暗珠奔太田資政
家傳云資政入道三樂在岩付城為通
事テ松山交飼大狗干兩城而知者在此時云々又云此後
資政又取松山城居上田闇礮奔上田變志屬北条云此說不同于此
三月廿日三好豊前守之康入道実休泉別久米多ニシ
イテ戦死ス去年ヨリ三好一族畠山泉別岸和多ニ對陳
ス三好豊前守之康入道実休ハ久米多ニ陳シハル畠山
高政并ニ根来寺ノ衆徒安見美作守等牒シ合急ニ久
米多ニ押寄ス三好カ兵二千ニ分テ陳ヲハル篠原右京
進大將トメ根来寺衆徒ニカ、ソ大ニ勝紀別勢湯川根
来寺衆ノクワルヲ見テ色メキ立テ危カリケレハ三好
山城守同下野守同備中守一同ニ湯川カ陳ヘソシヨセ相戦
実休カ旗本甚無人ナリ実休元ヨリ勇ニ過テ謀メ

ラサル大将ナレハ勝ニノツテ旗シス、ム畠山高政ヒコシ伺テ
大ニ戦フ実休ツイニ戦死ス隨兵卅余人一同ニ步死三好
カ兵初軍ニ勝トイヘヒ大将段ニ步死ノ上ハ諸軍皆
敗走ニ高屋城実休暫在城畠山高政入替シリ高屋ハ本畠山居城也安宅
冬康泉洲岸和多ノ城ニ籠テ堅固ニ守ルトイヘヒ後扱ニ
ナリ退城也 三月中旬ヨリ三好長慶カ所守ノ飯太
ノ城ヲ畠山高政カ兵安見并ニ紀列根来寺ノ衆徒相
アツソリテ攻之長慶堅守ヲ不落

夏五月飯森ノ後責トノ三好山城守慶長安宅撰肆守

冬康四国ノ三好カ一旗ヲ催足ノ飯太ニ趣ク三好

元前守美長修理太夫長慶子同下野守同備中守松永久秀撰

別勢ヲ催メ飯太ノ後責ニ出五月廿日河内国教興寺ニ出
張メ寄キ紀列勢ト大ニ戦三好勝利ヲ得紀列ノ大将湯川戦
死ス是ニヨツテ寄キコトクク敗北ニ畠山高政高屋城ヲ
ヲキテ堺ヘノカシ安見美作守撰州大坂ノ城ヘノカル廿日
ノ一戦ニ長慶大勝利ヲ得テ河内和泉大和山城撰肆丑
箇固一時ニ長慶カ平裏ニ屬ス高屋ノ城三好山城守ヲ
レヲウケトル也江列佐々木美賢モ畠山ニ加勢ノタメ
將軍山ニ出勢ストイヘヒ高政没落ニ付テ則兵ヲ入
同月織田信長西美濃ニ出勢メ在々ヲ放火ニ黒侯ニ

要害ヲカニ九條城ニ織田勘解由左衛門尉ヲ入シク五
月雨連日相ツキ洪水盛リノ通路難叶時節ヲ考一齊
藤龍興右兵衛大夫家臣牧村牛之助稻葉又右衛門尉ヲ
以テス黒ス俟スヲ攻シム信長則出勢ノカ狂ル海ニヲイテコレヲ
伐ツ日既ニ暮テケレハ夕月夜ヲカトシテ互ニ相戦牧村
カ兵敗北ス稻葉カキテ織田勘解由左衛門尉カ戦
ノ討死ス野村三十郎コレヲ討取他田信輝佐々成政等
大ニ戦テ稻葉又右衛門尉ヲ討取齊藤カ兵コトクノ逃
退信長其場ニツイテ夜ヲ明ニ陳ヲ堅クシテ而メ明日
兵ヲ入

秋九月源元康公三州二連木牛久保佐服八幡ノ款ト
赤坂ニテ大ニカフ酒井左衛門尉忠次カ勢敗北メコノ
時渡邊半藏守綱数度返シ三度鎗ヲ合セヒキトリ款
勝ニノツテ追キタル元康公自ラ款ニアメリツイニ款板
倉正討死ス近藤傳コレニ因テ款勢悉敗北ス元康公
ノ軍勢ツツイテ佐服八幡ノ要害ヲシヤフソ城中ノ
男女コトクノ殺害ス而メ吉良義昭東條ニ住メ元康公
不從度々メカイアリ今年荒川甲斐守吉良ヲシムイ
テ因崎ニ帰服シ酒井雅樂助正親ヲ荒川ニ引入ルコレニ
因テ元康公ノ兵東條ノ城ヲ攻カ戦シテ吉良義昭遂ニ

降参ス酒井雅樂助正親西尾ノ城ヲ襲トル城主牧野
城ヲステ、逃去ル則西尾ノ城ヲ酒井正親ニタマフ松井
左近忠次後改固 西郡ノ城ヲセム江列甲賀ノ任人伴中務
同太郎左衛門尉ヲカメライ城中ニ忍入ラシメ城主鶴殿長
照長持ヲ生トル是ニヨツテ西郡ニハ久松佐度守ヲ入ラキ
玉イ伴ニ感書ヲ賜テ三列マタラメノ卿ヲ賞シテ今川
氏真鶴殿カイケトリトナルヲアワレム此比三郎信康卿
駿列ニ人質タリ元康公今川ニツムキ氏真方所々ノ要害
ヲ攻取リ玉イケレハ人質信康卿ヲ駿列ニテ罪死ノ沙汰
アリ石川伯耆守教正コノヲキイテ信康卿罪ニアハセ玉ワ
ンヲ悲歎シ元康公へ申乞テ駿列ニ下向シ若信康卿
罪死ニツイテハ教正死ヲキモスヘシト羨ヲ金石ニ比スシカ
レ今度鶴殿生捕ニアフヲ幸トメ石川今川カ家臣ニ
於ツイニ鶴殿ト信康卿ヲロエシメニテ約ス氏真コレニ
従フテ九月信康卿ヲ固崎ニカヘシ奉ルコレヨリ元康公
永ク今川氏真ト干切シ玉フ也

癸亥十三年永禄 六年春王二月武田信玄帥師伐上州諸城
陷○三月細川晴之卒ス干普門寺○夏四月東寺塔災○
秋八月松永久秀殺三好美長干芥川城○冬十月根来
寺与三好成○一向門徒叛源家康公今年秋 改家康據于野寺

佐崎土呂釘崎○十二月細川氏綱卒于淀城

癸亥十三年永祿六年春二月武田信玄上列ニ攻入箕輪女中

松枝ヲ攻取ル城主谷武田方ニ降参 三月細川晴

元入道一清撰列富田普門寺ニライテ卒スヨレヨリ細川

再ニ家ヲ不_レ起也凡ソ細川政元永正元年ニ西家ヲ繼嗣ト

セシヨリ今年マテ六十年ニ歳南海大ニ亂レ一日モ徳テラス

細川ツイニ衰テ三好松永天下ニ威シフルフ_レ政元カ遠慮

ナキニヨレリ

秋八月三好汎前守長美撰列芬川城ニテ卒ス是ハ松永

久秀已_レ尸威ヲ放ニセンコトヲ欲メ密ニ毒殺スシカレニ終理

大夫長慶年老テ子ナキカユニ松永執ニ申十川一存_レ子_レシ

繼嗣トシ或云美綱ハ美長弟也左京大夫美繼ト號ス松永威ヲフ

ルフ_レ三好ニニサレリ 今年秋源元康公御講ヲ家康

ニト改メ玉イ今川氏真ト手切ニ付テ三郎信康卿江

織田信長ノ女ヲコイラセラレ弥信長ト互ニ相助救_レヲ約

シ玉_レ

冬十月三好方ト根来寺衆徒和睦ス 同月源家康

公ニ向門徒ノ賊ト大ニ戦玉_レフ今年秋管沼藤十郎佐

崎ノ上宮寺一ヲシ入テ寺中ノ米粮ヲトリテ取出ノ城へ

入ル上宮寺ハ三列三箇寺ノ第一院家ノ寺ニテ野寺

針崎佐崎ノ寺領ハ一代々守護不入ノ地也シナルニ菅沼不美
ノ至リテリト怒テ門徒一揆ヲ企テ菅沼カ館ニ入ラコトクツ
糾妨ス酒井雅樂助正親コレヲ取扱ノ處一揆彼カ使ヲ切
ル家康公コレヲイニシメ玉フノ處一揆大ニ起リ家康公ニ
敵對ス主人ハ一世ノシタヒニ法ハ末世永劫ノヲナリトテ
御家人譜代ノ歴々多一揆ニ與又此ヒマヲ伺テ吉良美
昭東條ニ楯籠リ荒川甲斐守美昭ニ屬シ松平監物家
次吉良ニシシ櫻井ニ楯籠酒井將監ハ上野^三ニ楯籠
テ一揆ニ与ス是ニヨツテ岡崎歴代ノ御家人皆家康公ニ
敵對ノ日々夜々ノ戦ヤニス今年十月ヨリ明年^{永祿二}
月マテ上和田伊田ノ御小豆攻ニテイテ戦ヤリ 十一月

毛利元就屋子暗久ヲ攻テ富田ニ在陳ノトコロ但馬因幡ノ
國侍屋子家ハ加勢トノ矢玉兵糧ヲ入ニタメ雲伯ノ境ヲ
ノ濱一至此元就カ兵陸ヨリ福魚左近船手ヨリ見玉内
藏元ヲシヨセ大ニ戦フ富田ヨリ兵ヲ出メ宗徒ノモノウタ
ル是ヲ弓ノ濱ノ戦ト云也 十二月細川氏細城別院ノ
城ニテイテ卒ス

甲子十四年 ^{永祿}七年 春王正月里見美弘帥兵與北条氏康
戦于鵜^{下路園}臺美弘敗績○家康公伐賊徒○二月向賊乞成家康公宥其罪○
三月上榎輝虎攻高井城^{下路園系}城堅守輝虎旋師○四月今川氏真帥師次于丰久保

三攻一宮岩家康公帥師次于佐服八幡氏真力師潰氏
真遂班帥○戸田主殿助以二連木降于家康公○家康公
兵于小原肥前守吉田戰于下地○五月松永久秀殺安宅冬
康于飯表城○六月小原肥前守出奔駿河○家康公賜吉
田千酒井忠次左衛門尉○秋七月三好長慶卒于飯表城○
八月織田信長襲稻葉山城美濃奇藤龍興出奔越前○信
長遷于岐阜城稻葉山改岐阜

甲子十四年永祿七年春正月総別鶴臺ニライテ北条氏康

ト里見美弘ト相戦フ初メ太田道灌カ嫡流武列江戸

ノ住人太田原六資高又源六太永四年江戸ノ城ハ氏綱

ヲ引入テ管領ヲ追落ストイヘトモ江戸ノ水城ニ富永

四郎左衛門尉ニノ郭ニ遠山丹波守香月亭文田ヲ

入ライテサシテ恩賞ニ不與資高コレヲ憤テ岩付ノ

城主太田美濃守資政入道三樂ニ内通メ里見美弘

ト牒シ合セ江戸ノ城ヲセメ取豊嶋郡ヲ太田カ領分ニ

セシテ約ス是ニヨリテ江戸法言寺ト云法華寺太田墓資高才源三郎原四郎

及一族會盟ノヤカテ里見ヲ引出ス法言寺コノ事ヲキイテヒ

ツカニ遠山丹波ニ告テ北条家ニ誣進セシム氏康大ニ怒

リ太田兄弟ヲ可誅戮ノ旨遠山ニ命ス太田キ、廿夜ニ

キレ岩付へ逃亡メ太田カ子ヲ里見ニ示シ合セケルユヘ

里見義弘今年正月初ニ鷓臺へ出張ノ江戸ヲ攻レテヲ
義ス因レ此北条氏康氏政同月鷓臺へ出張也江戸ノ城
主遠山富永先陳ヲツトム七日ノ朝戦ハシニリ北条カ兵
遠山丹波守富永三郎左衛門尉山角四郎左衛門尉
中条出羽守何村修理亮太田下野守
太田原大妻之 以
又七條六村之
下悉ク打死シ北条家敗北ス北条上総少ハルカノワキカラ
ノキカ頼ヲフシワタリニ陣ニ入カヘ相戦トイヘ氏大勢ウタセ
テ引退翌日八日ハ北条家ツカレテ合戦不可叶トテ里見義
弘大幕ヒイテ酒宴ヲニフク北条家昨日ノ戦ニ遠山富
永ヲウタセ不安シモイケレハ横江中兵衛尉大橋山城十
兩人ヲ款陳ヘ忍入里見カヲコトクヲ考氏康氏政ニキニ
ナリテ両方ヨリ切テカ、ル里見義弘不意ノ戦ニサレノ、ニ打ナ
サレ里見民部太輔同右兵衛尉榎木左近太輔同平六平七
菅野甚五郎一死ニ討死ス北条カ兵山角伊勢守榎木
彈正左衛門尉ヲウツトル義弘スラニ打死スヘカリシヲ家
臣安西伊豫守已シカ馬ニ義弘ヲノセラ自供ナイ落行
美弘カ馬射コロサレテ戦場ニアリケレハコレヲ見テ三十
餘人同時ニ打死ス 同月家康公一向門徒ノ輩ト大
ニ戦玉イテ御家人等戦死ス 二月三日門徒ノ一揆
等和談シ乞ニ付テ則寺内乞ノコトク立ヲカレ一揆ノ張

本に僧俗に赦免アリ石川日向守家成土呂寺内ニ至
テ告ケレハ一揆にトクク^レ和平シ御家人皆還住ス廿八日
吉良美昭カ東條ノ城ヲセメ玉フ吉良城ヲステ、逃シ
去ル則松井左近忠次ヲ東條ニ入置玉フ櫻井ノ松平
監物カ罪ヲ云サレ荒川甲斐守松平七郎^{大草}ヲ遂放セ
ラレ三列ノ一揆コトク^レ平均ス而ノ今川氏真近日三
列へ出勢ノ沙汰アレハ一宮ノ要害ヲカマヘニ本多百助
ヲ入ヲカル今川家ヨリ佐服八幡ニ取出ヲカマヘ吉田牛久
保ノ要害トス

夏四月今川氏真一萬餘ノ兵ヲ率メ東三河ニ出張
牛久保ニ本陣ヲスヘ一宮ノ取出シセメ端城ニツ攻ヲトス
家康公則三千ノ兵ツ卒メ一宮ノ後責トシテハ幡佐服
ノ河ニシイタシ本能^{ホシノカ}魚ニ出一宮ノ寄ニキニカマフス氏真
カ本陣へ馬足軽ヲカケ玉フノ処駿府ニツイテ武田信虎
逆心ヲ企氏真ヲ楯出スト云テ告来テ今川カ兵大ニ騷
勤スフノ上濱^{遠近}松ノ城主飯尾豊前守ヒソカニ岡崎へ内
通シ氏真ヲソムキケルユヘ氏真カ戦不^レ叶一宮ノトリ出
ヨリ本多百助以下出テ相戦氏真カ兵大ニ敗ルカユヘニ
氏真戦^レ不能メ早々引取ル是ヲ世ニ一宮ノ退口ト云
ナリ三列吉田ノ城ニ今川カ家臣大魚備前守在

城ニテ近辺ノ人質ヲ吉田ニ入置ニ連太六戸田主殿
在城ス主殿助家康公へ内通ノ志アリトイヘソノ母吉
田ニ質タルコト事不叶今月主殿助策ヲナシテ母ヲ又ス
ト出シニ連木ニカヘラシメ家康公ニ隨フ

主殿常ニ大魚カ
許ニ至テ双六ヲナ
シ長持ニ差テ入テ城へ入大魚
ヲ饗シソノ長持ニ母ヲ入ノカシム 家康公フノ志ヲ感松平ノ氏ヲ

賜主殿率而甥
丹波守相續而メ家康公吉田ヲ攻玉フ吉田下地ニテ

イテ吉田ノ城兵ト戦フ蜂屋半之允カ戦ス川合正徳鉄
炮ヲ以テコレヲウツ本多平八郎忠勝十七歳ニシテ

カ戦ストナリ 五月松永久秀已シカ威ヲフルワニカ

タメ三好ヲハカラフ十回一存ハ既ニ死去セリ実休ハ人

米田ニテ抄死セリ長慶ハ老耄ス安宅冬康一人ノコノ

テ松永心カハリナレハ密ニ謀ヲカニ長慶ニヨリク冬康

逆心ノヲサハユ長慶將得心セス松永マカテ謀書ヲツ

クリテ長慶ニミセケレハ長慶驚テ冬康ヲ召ラ亟ニメツ子

ントス松永兼テ謀リシヲナレハ飯表城中ニシイテ長慶カ

命ナリト称シ五月九日安宅冬康ヲ生害スシカレハ長慶

カ兄弟皆死亡メ唯三好カ遠族コラノユリケレハ松永カ威

甚振ヘリ三好ノ一族モコトクク松永カ下知ニシタカフ

六月家康公吉田ヲ攻玉フ酒井左衛門尉忠次先陳タリ

酒井カ謀ニヨツテ大魚ツイニ和シユイ六月廿日家康公

弟源三郎等ニ酒井忠次カ娘ヲ人質ニトリ駿府ニ引
退リ今年六月三州ノコリナリ家康公ノ手裏ニゾクヌ
源三郎ハ今川氏莫改落ノ後駿河人奉行三浦五市甲外へ
ワカワシ信玄へノ人質タリ酒井娘ハ後五井ノ松平外記上塚ス
六月廿二日三州吉田ノ城ヲ酒井左衛門尉忠次ニ賜フ
忠次吉田ニ在城メ東三河ヲ下知スヘキ旨書ヲ賜フ
秋七月四日三好修理大夫長慶飯高ノ城ニテ死去ソ
ノキキコヘナハ京都ヨリ追討ノフモハカリカメシトテコレヲカ
クシ使込ヲナサスヒソカニ河州真觀寺ニ葬ル左京大夫
美繼相續ノ事ヲ執行 八月織田信長美濃國稻葉
山ノ城ヲ襲取ル初メ奔藤美龍一色式部太丈ト改テ

稻葉山ニ在城永祿四年五月十一日病死

奔藤道三福子
死メ六年ノ也

右兵衛督龍與相續メ美濃ヲ守護ス龍與國政ニヲコ
タリ武美ヲ忘ル家臣日根野弘就國政ヲツカサルトイヘ
臣倭臣諺シカマヘケレハ事ナラス織田信長武威日々ニ
盛ニメ美濃國ヲ退治セテヲ晝夜志スコレニヨワテ奔
藤家臣西方ノ三人氏家常陸夕入道ト全稻葉伊豫守
安藤伊賀守ヒソカニ信長ニ通スソノ比竹中遠江守カ子ニ
半兵衛尉重治ト云モノ濃州不破郡磐手ノ住人ナリ奔藤
山城守入道々々三遠江守ヲ磐手ノ城ニシラシムシカ
ルニ半兵衛尉龍與ヲ恨テ 重治十
七歳 其弟久作ト密討シ

イタシワツカ十六人ニテ今年稲葉山ノ城ヲツイ取テ重
治自舟藤飛彈守ヲ擊殺ス龍與ヤウヤク逃去ル其後重治
稲葉山ノ城ヲ龍與ニカヘス龍與如此ナリユキケルユニ八月
信長ツイニ稲葉山ヲ龍與ヲ是ヲ攻取也而ノ信長羨懐
ヲ平均ノ夕ノ自稲葉山ニウツリテ城郭ヲヒロクニ周ノ岐
山曲阜ノ字ヲ取テ岐阜ト号シ是ニ在城ス
賊亡ノ時於
哉前戰死 龍與之龜
年中朝倉

冬十二月細川京都ノ屋形修理ノ料ヲ撰列一棟別ニカ
ク松永コレヲ沙汰ス人民大ニ苦

乙丑十五年永祿八年春王正月三列○家康公攻寺部城鈴木

寺逃于家並卿○酒井將監出奔駿列○夏五月三好美繼
松永久秀弒ニ公及其牙周景鹿苑院近臣皆死之○美昭
卿出奔江列○六月天王贈左大臣從一位○武田信玄
伐越中○秋七月松永久秀叛于三好美繼○九月織田
信長約歸其女于武田勝頼

乙丑十五年永祿八年春家康公三列寺部城ヲ攻玉フ城主
鈴木日向守城ヲステ、已レカ領分家並ノ卿ニ逃ル酒井
將監園崎ヲイテ、上野城ニ入ル酒井左衛門尉忠次
本多豊後守康室ニレヲ攻將監ツイニ不レオノ駿列一逃亡
又三列平均ニ因テ本多作左衛門尉重政高カ左近

天野三郎兵衛尉康景ヲ三奉行トシテ国政ヲ
ト、ノヘシメ玉フ

松永久秀ヲ不美ヲ企三好カ一族ヲ殺シ長慶死スルヲモ

密ス是已レカ權ヲ放ニイマスノユヘナレハ公松永ヲ誅セラレ

松永一味シケル三好回黨ヲ亡ホサルヘキ内々ノ催也松永

驚テ三好美繼并三好一旗ヲカタライ嶋公方將軍惠

林院美植ノ子孫美宗ヲ將軍家ト仰キ三好松永權ヲ

トランヲ相談セシメ五月十九日三好左京大夫美繼并

松永右衛門佐久通久秀子等兵ヲ卒二條武衛ノ攝將軍

家ヲ圍ム警衛ノ武士カ戦ストイヘ氏不叶火ヲ放テ將軍

家自殺相從テ戦死スルモノ三十一人母公慶寿院モ同

没ス御臺所ハ近衛前久ノ女ナレハコレヲ近衛家ヘシク

リス將軍家ノ御弟奈良一乘院門跡覺慶春日ムツ

コヘテ近江ニ叛佐々木六角美賢入道兼禎定頼子ヲ

クノミ還俗ノ美昭ト號ス鹿苑院ノ周髻ハ路ニテ害セ

ラル前將軍歳三十光源院ト號ス 六月七日左大臣

從一位ヲ贈ラル 同月武田信玄越中ニ出勢ス稚

名某降参ス

秋七月三好日向守同下野守岩成主税助號三ト松永久秀

鉾楯ノヲ出未ス三好左京大夫美繼飯杵ノ城ヨリ

高屋ノ城ニウツリ松永久秀ト手切ニ付又乱逆出来也
九月織田信長ト武田信玄和睦アツテ信長ノ女ヲ武田
勝頼ニ嫁セニテ約ス

実信長カ姪
女ヲ養女



[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]



